

会議開催結果

1	会議の名称	令和6年度第2回砥部町健康づくり計画及び食育推進計画策定委員会
2	開催日時	令和6年11月26日（火）午後1時～午後2時30分
3	開催場所	砥部町保健センター 集団指導室
4	審議等事項	（1）次期計画素案について （2）その他
5	出席者名	【出席委員】14人 木谷伸治（町内医師会代表） 稲田雅仁（町内歯科医師会代表） 奥田美恵（愛媛県立医療技術大学看護学科講師） 白石由起（愛媛県中予保健所健康増進課長） 西岡幹夫（区長会代表） 河野秀康（民生児童委員代表） 村上明子（NPO 法人とベ子育て支援団体ぽっかぽか代表） 木山千恵（砥部町ふれあい・いきいきサロン連絡協議会会長） 山本真理子（砥部町食生活改善推進協議会会長） 町田忠司（砥部町PTA連絡協議会会長） 則友美紀（砥部町立小中学校校長会代表） 大内香織（砥部町養護教諭代表） 金本健守（松山南警察署代表） 中川克則（砥部消防署代表） 【欠席委員】1人 立町文美（砥部町栄養教諭代表） 【事務局】 保険健康課 岩田恵子・福見早苗 吉村梨江・光井雅美・大野敬子 (株)シヅパソインターナショナル総合研究所 中村卓介
6	公開・非公開の別	公開
7	非公開の理由	—
8	傍聴人数	0人
9	所管課	砥部町保険健康課 電話 089－962－6888

砥部町健康づくり計画及び食育推進計画策定委員会会議録(概要)

発言者	発言内容
事務局	1 開会
議長	2 議事 (1) 次期計画素案について、事務局より説明をお願いします。
事務局	資料2「砥部町第3次健康づくり計画、砥部町第2次食育推進計画及び砥部町第2次自殺対策計画(素案)」について説明。 ・第1回策定委員会(9月開催)以降の修正点 ・計画素案の構成について ・砥部町第3次健康づくり計画素案の概要
議長	事務局の説明が終わりました。ただいまの説明について、ご意見ご質問はございませんでしょうか。
委員	P.50にある成果指標について。目標値が「平均寿命の増加分を上回る平均自立期間の延伸(増加)」の表現が分かりにくい。言い換えれば「平均寿命と平均自立期間の差が短くなればよい」という認識であるなら、その差を基準値として明記した方が評価しやすいのではないのでしょうか。
事務局	ご提案いただいたとおり「平均寿命と平均自立期間の差が短くなる」と表現すれば簡潔で分かりやすいと思いました。目標の変更については、事務局内で再度協議させていただき修正できればと思います。
委員	つながりやメディアという言葉が計画書に出てきていました。メディアやSNSの普及に伴い、いろいろなつながりの場面が増えてきていると思います。それについては、事務局の説明にもあったように良いこともあれば悪いこともあります。

事務局	ますが、例えば外出はしにくい高齢者が仲間同士でつながれる SNS として LINE 等も含まれると思いますので、そういった対面だけではないつながりについても記載してみたいかがでしょうか。 高齢者にとってのメディアにおけるつながりについては、これまでの意見交換としてなかなか深められていない状況ではありますが、高齢者と関わっている部署の方たちにもご意見を聞きながら、個人・地域でできることとしての取り組みの明記を検討できればと思います。
委員	P. 62 にある枠を越えたつながりとは何でしょうか。例えば年齢なのか、性別なのか、地域なのか、それを総称しての枠かとも思いましたが、記載内容を見る限りそこまで広義でもないような気がします。表現の仕方であったり、ご検討いただければと思います。
事務局	ご想像いただいたとおり、枠と捉える場面は多岐にわたっているため、あえて含みをもたせたかったというのが事務局としての意向でした。例えば、地域で活躍している団体も複数存在しているので、団体同士の枠を越えて横のつながりを増やすという主旨もあれば、地域で農作業を通じて児童館や高齢者が交流している活動もあり、年齢の枠を越えたつながりも増やしたいという主旨もありました。こういった世代間交流については、P. 61 の取り組み内で記載していますが、P. 62 にも同様に記載することで、様々な枠のニュアンスが見える化できたらと思います。
委員	P. 66 にある成果指標について。特定健診の受診率が記載されている。これは砥部町が実施主体になっているので、データとしては取りやすいと思います。ただ砥部町は、住民の声を聞くためにアンケート調査も行っていますので、その中

事務局	に「毎年、健診を受けていますか」という項目を入れておけば働いている方の健診受診率も反映できるので、特定健診だけの受診率よりかなり高い数字が出るのではないかと思います。そうすることで、住民全体の計画になると思います。中間評価からでも構わないので、ぜひアンケート調査に含めていただき、成果目標の一つとして評価していただければと思います。 実はアンケート調査ではすでに設問として存在はしていましたが、分析をする段階で選択肢の一つである「町の特定健診を受けていますか」という結果ばかり注視してしまい、特定健診を受けている人が 16%という結果は、実情には沿わないという判断のもと、成果目標の内容からは除外をしてしまっていました。 ただ、アンケート調査報告書を確認する限り、何かしらの手段で健診を受けている人が 8 割はいそうだとすることが分かりましたので、こちらについても成果目標として明記できればと思います。
委員	「若い時期から」という表現がいくつか出てきます。若いって何歳ですか？人によって受け取り方が違うと思いますが、受け取り方が違っていいということで表現しているのか、でも取り組み内容を見ると学校についてふれているので児童からという具体的なイメージがあるのか。そのあたりについてご検討いただければと思います。
事務局	この表記については、それぞれの基本目標及び取り組み内容によって、対象となる年齢、若い時期の線引きは異なるとは考えていました。例えば、健診に対する取り組みについて、学校という言葉を出しているのは、小学 4 年生で受けている小児生活習慣病予防健診やそれ以外の学年の子どもたちも毎学期ごとにある身体測定の結果などに表記されている肥

	満度など、子どもたち自身にも関心を持ってもらい、自分の健康状態について気付く。そして、その結果について保護者と子どもが話してみる家庭時間をつくってもらいたいという思いもあり、あえて年齢について限定的な表現を避けたという経緯があります。若いという概念の線引きについては、各取り組みの右側にある「対象となるライフステージ」の表記で区別していただければと考えています。
委員	P. 11 にある SMR について。他の会議でもレーダーチャートをよく見ますが流行りなんですか。私たちがこれまでにふれてきたレーダーチャートは学校の成績。その場合は外側にいくほど成績が良いと判断しますが、SMR の場合は 100 が全国値なので、全国よりも低いのが良いと判断します。そうすると、認識の誤差が生じるのではないのでしょうか。統計を出すときの見せ方は大事で「レーダーチャートにすると 5 や 10 の差は比較となる線が重なって見えてしまうこともあるので、棒グラフが良いですよ」と先日、大学の先生からご意見をいただきましたので、お伝えさせていただきました。
事務局	第 2 次計画まで同様のレーダーチャートで表記していたため違和感なくまとめていましたが、またジャパン総研の担当者とも協議しながら、全国的な統計の見せ方を意識しつつご提案いただきました棒グラフへ変更できればと思います。
議長	その他、何かご質問はございませんでしょうか。 それでは、続いて食育推進計画について事務局から説明をお願いします。
事務局	資料 2 計画素案（冊子）をもとに、第 2 次食育推進計画の概要（第 1 次計画からの変更点）について説明。
議長	重点目標 4 については特に説明は無くても大丈夫ですか。

事務局	重点目標４については、成果目標が設定されていないため説明は省略させていただきました。
議長	分かりました。それでは事務局の説明が終わりました。 ただいまの説明について、ご意見ご質問はございませんでしょうか。
委員	「砥部町で採れた野菜や果物を毎日食べている人」という項目がありますが、私自身は砥部町でどんな野菜が採れるのかも知りません。スーパーで砥部町産の野菜を見つけるのは難しいのではないかと思います。できれば「愛媛県産」というくりにまで広げた方が良いのではないのでしょうか。
事務局	砥部町版の食育推進計画を策定するにあたり、地産地消をテーマにするのであれば砥部町産にこだわりたいという思いで、第１次計画策定時からこの指標を用いています。 今回のご意見をいただき、改めて事務局で検討させていただきます。
議長	その他、何かご質問はございませんでしょうか。 それでは、続いて自殺対策計画について事務局から説明をお願いします。
事務局	資料２計画素案（冊子）をもとに、第２次自殺対策計画の概要（第１次計画からの変更点）について説明。
議長	それでは事務局の説明が終わりました。 ただいまの説明について、ご意見ご質問はございませんでしょうか。 （意見なし）

議長	それでは、全体を通じて何かご質問はございませんでしょうか。
委員	インタビュー調査を実施されていますが、その出席者数があまりにも少ないと感じました。集めるのが大変かとは思いますが、次回インタビューをされる時は、20～30 人を対象に行っていただいた方が真実味があるような気がします。
事務局	インタビュー調査は、参加者一人ずつの声をすべて聞き、それを何かしらの形で計画に反映したいという思いのもと実施しています。そういう目的を果たすためには、8 人くらいまでの小集団で行うグループインタビューという手法が、参加者間でも共通の認識のもと有効な意見交換になるという理論もあり、このような調査方法となっています。 もし調査対象者数を増やした方が信憑性が上がるというのであれば、同じ条件の別集団に、別の機会で改めてインタビューを行うという方法であれば、調査対象者の数は増やせると考えます。
委員	P. 50 の成果指標について、さきほど平均寿命と平均自立期間の差をみてはどうかと提案しましたが、結果として「平均自立期間が伸びた」という点だけを指標としても明確で分かりやすいかと思いました。
委員	砥部町の現状や課題について、インタビューなどを通じた意見を反映しているため、住民の生活実態などもすごく感じる計画になっていると思いました。 先ほど、インタビューの対象者数が少ないというご意見も出ておりましたが、この計画に出てきている内容と比べて、実際に地域で生活している感覚で違うような結果は出ていましたか（先ほどの質問者への投げかけ）。 もし感覚的に一致しているのであれば、このまとめ方でも

	住民が日頃思っていることなどが伝わってくる計画ではないかと思いました。
委員	インタビューの数自体は少ないと思いますが、計画内容の説明を聞きながら「その通りだな」と感じる内容ではありました。
委員	P.61 に記載している「人が集まる場等で他の人に迷惑をかけないか不安なために交流しにくいと感じている人がいる」とは、どういう人なのかを教えてください。
事務局	高齢者、子育て世代それぞれから出ていた意見です。 高齢者で言えば、足腰が弱くなっているために、みんなで昼食は食べたいけれど、長時間の立ち作業が難しいので調理実習には参加できないという気後れがあり、集まりに参加してもいいのか不安に思っている人がいるという内容でした。 子育て世代からは、いつ自分の子どもの機嫌が悪くなるかわからない中では、せっかくみんなで和やかに過ごしている空気までも悪くするのではないかと不安なため、子ども連れで集まりに参加するのは勇気がいるという話が出ていました。
委員	実際に砥部町産の野菜はどういったところで手に入れることができますか。
事務局	砥部町産の野菜は、スーパーの産直売り場であれば生産者の名前も明記された形で販売されています。また、町内には道端沿いに果物や野菜が安く購入できる BOX も点在しています。他にも、町内に住む両親から家庭菜園で作っている野菜をもらっている子育て家庭があったり、ご近所から野菜をいただくこともあるという話も聞いています。

議長	他にご質問ご意見はないでしょうか。 それでは議事（２）その他について、事務局より説明を願います。
事務局	12 月に入ったら、町ホームページ上に計画素案を公開してパブリックコメントを募集します。 第３回策定委員会にて、計画の承認をいただく予定です。
議長	ご意見はないでしょうか。 ないようでしたら、以上を持ちまして本日の会議を閉会します。皆さまのご協力により、無事策定委員会を進めることができました。委員の皆さま方には、長時間に渡りご審議を賜り、ありがとうございました。 これで閉会をいたします。